

# 高等学校第一学年 国語科国語総合学習指導案

指導者

職名

氏名

実施日時 平成十九年十月

実施学級

実施場所

## 一 単元名

評論（三）

「ネットが崩す公私の境」

黒崎 政男

## 二 指導観

○ 高度情報化社会を生きる我々にとって、パソコンは必要不可欠な道具であり、インターネットの普及もめざましい。おかげで我々は大量の情報を短時間で処理し、必要な情報を瞬時に検索できるといふ便利さの中で生活できているが、一方ではインターネットを悪用した犯罪が年々増えているのも事実であり、多くの子どもたちが被害者になっている。現代の子どもたちはパソコンが身近にある環境に育ち、様々な形で利用していると思われるが、その利便性にばかり目が向き、その奥に隠された負の側面には気付かないままに人を傷付けたり、自らが傷ついたりしている可能性はある。インターネットがそのような危険な道具に成り得ることを知り、これからの利用の仕方を考える意味でもこの単元は意義あるものと考ええる。

一学期に学習した、評論（一）小関智弘「独創を生む条件」では個人の生き方を考えさせ、評論（二）山崎正和「水の東西」では西洋と日本の文化の違いを通して、日本人としてのアイデンティティーに思いを至らせた。一学年で学ぶ評論としては三作品目となるこの評論では自己と世界との関わり方や他者との関わり方の変容を通して、人間が〈単独性〉の生き物ではなく、〈関係性〉の生き物であることに思いを至らせることを目的とする。社会との関わりを意識できるようになる高校生にとって極めて意義深い単元と言える。

四ページという短い評論ではあるが、日常使うことの少ない語句の意味を押さえ、表現の奥に込められた深い意味を的確に把握させることが重要になると考える。

○ 一学年の生徒は、七月の外部模試によると、国語の学力についてはほぼ中間に位置するが、小説に比べ評論の読解を苦手とするようである。その原因としては、評論文を読み慣れないこと、内容が抽象的なものが多く興味関心が向かないこと、難解と感ずるものが多いことなどが考えられる。また、事前に行った生徒対象のアンケート調査によると、「本はほとんど読まない」と答えた生徒が三十九名中十四名、「新聞はほとんど読まない」と答えた生徒は「テレビ欄だけ読む」も合わせると十八名であった。このことから、活字を読むこと自体に抵抗を感じる生徒が多いことが予想される。

しかし、この評論はインターネットという高校生にとっても身近な情報媒体を取り扱っており、その奥に潜む問題点に対する指摘は生徒の思考の世界を広げ、深めるものと考ええる。

○ 単元の指導にあたっては、堅い文章に対する抵抗感を少しでも取り除き、生徒が評論文も意外に面白いと思うようになる手立てが必要である。そのために、まず、生徒に事前アンケートを取ることでインターネットの活用状況を把握し、導入の話題として使うことで、生徒に身近な問題について論じている評論であることを知らせ、関心を持たせる。

授業の展開においては、現代文はいかに生徒に考えさせるかが重要になるので、発問の仕方を中心に据えた授業展開をする。段階を追った発問や本文の抜き出し、要約、説明などを内容に応じて使い分ける。また、語句の意味の確認においてはプリントを事前に配付して予習して臨むようにさせ、本文の読解の中でも難しい語はできるだけわかりやすい表現に置き換えて理解させることを心掛ける。

最後に作者の主張を理解させた上で、生徒自身が考えたことを意見文としてまとめさせることで、自己と社会の関係について思いを至らせる。

### 三 単元の目標

- 1 筆者の鋭い洞察力によって読み解かれた高度情報化社会の新しい現実を理解しつつ、情報化社会に対する自覚的な態度を養う。 【関心・意欲・態度】
- 2 現代社会と自己との関わりについて考え、自分の意見を論理的に文章にまとめることができる。 【書く能力「B書くこと イ」】
- 3 筆者の問題意識を正しく把握し、その精密な論理の展開を正確に理解することができる。 【読む能力「C読むこと ア」】
- 4 評論文特有の語句の意味や表現を理解し、語彙を豊かにする。 【知識・理解「言語事項 イ」】

### 四 単元の計画（全五時間）

- 1 導入 題名を通しての内容の推察、通し読み、語句の意味の確認 一時間
- 2 第一段落（初め）・第二段落（一・九・一〇）  
第二段落（一・九・一〇）  
一時間（本時）
- 3 第三段落（一・一〇・八）  
第四段落（一・一一・一）  
一時間
- 4 第五段落（一・一二・九）  
一時間
- 5 発展 「『ネットが崩す公私の境』を読んで、「だれもが著者になる時代」を生きて行く上で大切だと思うこと」について、意見文を書く。  
一時間

本文読解	導入	次
1	1	配時
<p>3 第三段落、第四段落において、インターネットの利点と欠点を読み取る。</p> <p>・インターネットの持つ力</p>	<p>1 語句の意味を確認の上、全体の要旨をとらえる。</p> <p>・ 題名を通しての内容の推察</p> <p>・ 通し読み</p> <p>・ 語句の意味の確認</p> <p>・ 段落分けの確認</p> <p>2 第一段落、第二段落において、「著者」の権威の成立と崩壊の過程を読み取る</p> <p>・ ニーチェの言葉の意味</p> <p>・ 活版印刷メディアと電子メディアの違い。</p>	学習活動・内容
<p>○第三段落については、生徒に現実に起こった問題を想起させることで日常生活とのつながりを持たせる。</p> <p>○第四段落については、</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>○事前アンケートをもとにインターネットについて身近な事例を各自に想起させ、単元への関心を高めた上で本文の通し読みに入る。また、語句の意味の確認については事前に配付しておいたプリント①を使って進める。段落分けについては、どのような根拠で区切っているかを確認する。</p> <p>○平安時代の著者と読者についての話しをすることで、情報媒体の歴史について生徒の興味を引き起こす。</p> <p>○ノートにまとめさせる発問をすることで、書くことに慣れさせる。</p>	評価規準
<p>○「従来のメディアとインターネットについて、1情報量、2意見の発表のしかた、3個人と公の関係、の3点について</p>	<p>○プリント①の語句の意味を調べること、言葉の知識を増やし主体的に評論文に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【知識・理解】</p> <p>（プリント分析）</p> <p>○「ニーチェにとつて『読者』とはどういうものか、」を的確にノートにまとめている。</p> <p>【読む能力】</p> <p>【書く能力】</p> <p>（ノートチェック）</p> <p>○「著者の『権威』がどのような状況で成立し、どのような状況で崩壊しつつあるか」を的確にノートにまとめている。</p> <p>【読む能力】</p> <p>【書く能力】</p> <p>（ノートチェック）</p>	評価規準

三 発 展	1	<p>5 「『ネットが崩す公私の境』を読んで、「だれもが著者になる時代」を生きて行く上で大切だと思うこと」について、自分の考えを四百字以内でまとめる。</p>	<p>○「『だれもが著者になる時代』は何を腐敗させてしまうか」について、自分の考えを根拠と共にプリントにまとめさせ、意見交流を行うことで、次時の意見文の下地とさせる。</p> <p>○インターネットの欠点を思い出させることで、自分はどうしようと思うかを考えさせる。</p> <p>○新聞記事で関連するものがあれば提示し、身近な問題として考えさせる。</p> <p>○基本的な文章構成を押しさえる。</p>	<p>○論理的で独自性のある意見文を書くことができている。</p> <p>【書く能力】 〈意見文分析〉</p>
	1	<p>4 第五段落において、ニーチェの言葉をもとに結論部を考え、全体を振り返って筆者の主張を読み取る。</p> <p>・ 今度は何を腐敗させるか。</p> <p>・ 文章の構造を理解する。</p>	<p>黒板に対比的にまとめることで筆者の主張を論理的に整理する。</p> <p>○各段落の要点を確認し、筆者の主張を読み取る。</p> <p>○文章の構造を各段落同士の関係を図式化することで確認する。</p> <p>○「『だれもが著者になる時代』は何を腐敗させてしまうか」について、自分の考えを根拠と共にプリントにまとめさせ、意見交流を行うことで、次時の意見文の下地とさせる。</p>	<p>ノートにまとめることができる。</p> <p>【読む能力】【書く能力】 〈ノートチェック〉</p> <p>○「『だれもが著者になる時代』は何を腐敗させてしまうか」について、自分の考えを根拠と共にプリントにまとめ、発表することができる。</p> <p>【書く能力】【話す・聞く能力】 〈発言チェック、プリントチェック〉</p>

五 本時

(一) 本時の指導観

導入として、ニーチェの写真を見せて視覚的に惹きつけ、本文の読解に入っていく。文章の意味を考えさせるに当たって、常に本文を抛り所とさせ、本文をもとに意味を考えさせる。そのために段階を追っての発問等も準備する。また、発問に対する答えをノートにまとめさせることで、論理的に思考し書くという作業に徐々に慣れさせる。「著者という権威」については、平安時代の著者と読者の関係と現代のそれとの比較

や、現代の作家の地位等を想起させて実感させる。

(二) 本時の目標

1 筆者の鋭い洞察力によって読み解かれた高度情報化社会の新しい現実を理解しつつ、現代社会が抱える問題について関心をもち、主体的に考えようとする。

【関心・意欲・態度】

2 第一段落、第二段落から、著者の「権威」の成立と崩壊の過程を理解する。

【読む能力】

3 発問に対応するように、要点を整理し文章にまとめることができる。

【書く能力】

六 教材

- ・教科書 「高等学校 国語総合」 第一学習社
- ・ニーチェの写真

七 学習の展開

学習活動・内容	指導上の留意点	形態	配時	評価
<p>導入</p> <p>○ニーチェの写真を見る。</p> <p>○本時の目標を確認する。</p> <p>「第一段落、第二段落から著者の『権威』の成立と崩壊の過程を読み取る」</p>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板のニーチェの写真に目を向けさせる。</li> <li>・前もって板書しておく、確認させる。</li> </ul>	<p>一斉</p>	<p>5分</p>	<p>評価</p>
<p>1 第一段落の内容を理解する。</p> <p>○第一段落を音読する。</p> <p>○「精神そのものが悪臭を放つようになる」(一一九・三)について、①同じことを述べている箇所を教科書から抜き出す。②どういうことを言おうとしているのかを考える。</p> <p>○「活字書物文化の特質」(一一九・六)とはどういうものかを確認する。</p> <p>○ニーチェにとって「読者」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名により音読させる。</li> <li>・比喩表現の意味をとらえさせるために、まず、同じことを述べている箇所を抜き出させ、それらから意味を考えさせる。</li> <li>・本文中より説明している箇所を抜き出させた上で確認する。</li> </ul>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>27分</p>	<p>○「ニーチェ</p>

ま と め	展 開
・ 次時の予告	<p>とはどういうものかをノートにまとめる。</p> <p>2 第二段落の内容を理解する。</p> <p>○ 第二段落を音読する。</p> <p>○ 「活版印刷メディア」と「電子メディア」の違いを読み取る。</p> <p>○ 「著者という権威」を実感する。</p> <p>○ 著者の「権威」がどのような状況で成立し、どのような状況で崩壊しつつあるかをノートにまとめる。</p>
・ 第三・四段落を行うことを予告する。	<p>足無くまとめさせる。</p> <p>・ 指名により音読させる。</p> <p>・ 違いが対比できるようにノートをまとめる。</p> <p>・ 平安時代の著者と読者の関係、現代の作家の地位を説明する。</p> <p>・ 本文をもとに、発問に対応するように、要点を整理しまとめさせる。</p> <p>・ つまづいている生徒には、「活版印刷メディア」と「電子メディア」の違いにもどって考えさせる。</p>
一斉	<p>← 一斉</p> <p>← 個人</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>
3分	15分
エック ヘノートチ	<p>エにとって『読者』とはどういうものか」を的確にノートにまとめている。</p> <p>【読む能力】</p> <p>【書く能力】</p> <p>ヘノートチエック</p> <p>○ 「著者の『権威』がどのような状況で成立し、どのような状況で崩壊しつつあるか」を的確にノートにまとめている。</p> <p>【読む能力】</p> <p>【書く能力】</p> <p>ヘノートチエック</p>